

カンサス：小麦作柄と気象状況

2004年7月27日(最終)

2004年7月25日現在：

7月25日に終わる1週間のカンサス州の気象は、湿潤・高温気象で全州に降雨があった。1週間の州平均農作業稼働日数は4.4日であった。土壌水分は更に改善した。遅れていた州北東部の冬小麦の収穫作業は、降雨の合間を縫って行われ完了した。昨年並びに平年より数日遅れての完了となった。

土壌水分は一時昨年より悪い状態であったが、7月の降雨でかなり改善し、2005年産冬小麦の播種にとり良い状態となった。

土壌水分状況：7月25日現在

Topsoil

	NW	WC	SW	NC	C	SC	NE	EC	SE	State	Week	Year
Very Short (%)	0	3	2	1	2	1	0	0	0	1	0	31
Short (%)	4	18	37	10	25	46	2	8	6	16	6	54
Adequate (%)	96	77	61	89	71	51	79	87	83	78	73	54
Surplus (%)	0	2	0	0	2	2	19	5	11	5	21	0

Subsoil

	NW	WC	SW	NC	C	SC	NE	EC	SE	State	Week	Year
Very Short (%)	27	18	25	11	3	1	2	0	0	8	11	18
Short (%)	56	53	40	49	28	28	14	5	4	27	27	55
Adequate (%)	17	29	35	40	69	71	84	94	87	64	55	27
Surplus (%)	0	0	0	0	0	0	0	1	9	1	7	0

Week means Last week, Year means Last year.

冬小麦の進捗状況：7月25日現在

	NW	WC	SW	NC	C	SC	NE	EC	SE	State	Year	Ave.
Harvested (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

Year means Last Year, and Ave. means 5 Year Average.

Source：Kansas Agricultural Statistics Service

2004年産シーズンの気象・生育概況まとめ：

2004年産冬小麦の播種は、圃場の土壌水分不測より平年より多少遅れて開始された。2003年9月7日の段階で全州の圃場の2%で播種が完了していた。その

後特に小麦主産地である州西部 3 地区 (NW、WC、SW) では降雨に恵まれず土壤水分不足が続いたが、全州としてえ播種作業は平年並みの進捗であった。10 月 12 日現在で全州の播種完了圃場の 50% で出芽 (2003 年産 : 52%、平年 : 44%) であった。10 月 19 日までは時々降雨もあり、播種は順調に進み、出芽も平年より多少早めであった。その後、降雨が途絶え土壤水分が下降し、出芽のペースが落ちた。10 月 26 日までに西部 3 地区での播種は完了し、NW では 60% の出芽、WC では 82%、SW では 91% 出芽していた。以後全州で Hot & Dry の気象が続いた。11 月 9 日現在で平年より多少早く全州の 99% にて播種が完了した。出芽は平年より多少遅くこの時点で 88% (平年 : 90%) であった。乾燥土壤が出芽を遅らせ、幼苗の生育を遅らせた。

冬季の気象はそれほど厳しくなく、降水は少なかった。2004 年 1 月の降水量は、西部地方では 0.00~0.26 インチであった。全州で凡そ 30% の小麦に軽度の凍害が見られた。2 月には月末に州中央部から東部に降雪と降雨があったが、西部は降水ゼロの状態であった。凍害、風害が一部発生したが、降雪が少なかった西部でも Severe damage は少なかった。3 月は州各地に降雨があり土壤水分が改善されたが、昨年水分水準よりは悪かった。3 月末なり小麦は休眠から覚め、生育を開始し、4 月 3 日の段階で全州の 27% が節間伸張期に有った。4 月末には全体の 84% が節間伸張、6% が出穂していた。作柄は昨年をより多少劣り、“Good” ~ “Excellent” が 40% と発表された。生育は昨年並びに平年より早い進捗であった。4 月末から 5 月始め、小麦は略節間伸張を完了穂孕み期から出穂へと進んだ。5 月 2 日現在昨年並びに例年より早く全州の 28% (昨年 : 6%、平年 : 17%) が出穂していた。5 月の第 1 週~2 週目にかけて夜間の気温が急激に下がり、氷点下を記録した。出穂中かその直前の小麦への被害が心配された。5 月始めの日中の気温は既に 94~100 度 F に達していた。小麦は降雨を最も必要とする時期であった。5 月 16 日に終わる週に於いても夜間に氷点下を記録した。西部地方の小麦は 75~97% が出穂していた。州全体では 90% (昨年 : 81%、平年 : 76%) 出穂していた。

5 月 1 日付け USDA 予想では、単位収量は 41.0 ブッシェルであった。昨年実績は 48.0 ブッシェル。

5 月のその後の気象は高温、特に西部 3 地区では高温・乾燥が続いた。全州の 38% の圃場で虫害が報告され、1 部圃場では 5 月始めの低温による凍害の被害が顕著と成った。高温は 6 月に入っても続き、各地で 100 度を記録し、一方降雨もあり、小麦に病害が発生しだした。最も報告の多かった病気は powdery mildew (うどん粉病) と leaf rust (赤錆病) であった。5 月末に略全州の小麦が出穂を完了し登熟期に入った。6 月 6 日現在全州の 53% が turning color (登熟) をしており、高温に押され昨年 (30%) 並びに平年 (31%) より凡そ 7 日ほど早い進展となった。作柄は 26% が平年並みかそれ以上と評価されていた。6 月 15 日には略先週の小麦が登熟の後期であり、64% が完熟~枯熟 (昨年同期 : 16%、平年 : 32%) と成った。気温は 99~102 度 F にまで上昇した。土壤水分は極端に減少した。東部地方を除き小麦の収穫が 6 月始めより開始され、6 月

13日現在全州の15%にて収穫が完了した。その後カンサス州各地に降雨があり、多い所では1週間の降水量が5.47インチ、西部地区でも平均2.12インチに達した。降雨で収穫作業が中断した。6月20日の収穫完了は40%（昨年：10%、平年：22%）であった。

USDAの6月1日付け生産量予想では、単位収量は39.0ブッシェルに落ちた。

6月下旬から7月に入っても各地に降雨があり収穫作業が遅れた。7月4日現在99%が枯熟しており、収穫は可能であったが、NWでは35%、SWでは26%のが未収穫であった。降雨の為作業が遅れ、7月4日現在全州平均の完了率は83%で昨年の82%、5年平均の81%に略並ぶ結果となった。圃場での穂発芽、雑草繁茂が心配された。

7月1日のUSDA生産量予想は、36.0ブッシェルとなった。USDAのサーベーター結果では1平方フィート内の穂数は41.2本（昨年：50.6本）と発表された。

単位収量予想は、5月1日：41.0 bu/acre、6月1日：39.0 bu/acre、7月1日：36.0 bu/acreと減少した。

7月中旬になり天候は回復し、7月18日現在で全州の99%の圃場で収穫が完了した。結果として昨年並びに5年平均より多少遅い完了となった。

5月中旬から6月中旬までの高温・乾燥は丁度生殖成長にあった小麦は急激に完熟に押しやられ、予想位収量を下げる結果となった。

カンサス州の過去10年の冬小麦実績表（カンサス州農務局、統計部）：

Crop year	Planted area	Harvested area	Yield	Production	Test weight	Protein Mois12%	Moisture
	1,000 acres		bu/acre	1,000 bu.	lb/bu	percent	percent
1994	11,900	11,400	38.0	433,200	60.3	12.1	11.4
1995	11,700	11,000	26.0	286,000	58.4	12.3	11.1
1996	11,800	8,800	29.0	255,200	60.2	13.3	12.3
1997	11,400	10,900	46.0	501,400	60.6	11.8	11.9
1998	10,700	10,100	49.0	494,900	61.5	11.5	11.2
1999	10,000	9,200	47.0	432,400	60.2	11.5	12.2
2000	9,800	9,400	37.0	347,800	59.9	11.9	11.8
2001	9,800	8,200	40.0	328,000	60.9	12.1	11.8
2002	9,600	8,100	33.0	267,300	60.0	13.1	11.2
2003	10,300	9,700	49.0	475,300	60.7	11.7	11.5
2004	9,900	8,700	36.0	313,200	59.8	12.5	11.7

2004 cropの収穫面積、単位収量、生産量はUSDAの7月1日予想の数値。

Test weight等品質は7月22日付けKansas Agricultural Statistics Service発表の数値であり、収穫当初から7月17日迄に51郡からの4,214貨車から採取されたサンプルの平均値である。蛋白質は水分12%ベースの数値である。

詳細は次のサイトを参照。

<http://www.nass.usda.gov/ks/wqpress/2004/wtqlj04.pdf>

品質は5月中旬～6月中旬の高温・乾燥気象により、高蛋白、低容積重が予想さ

れ、収穫期の降雨は穀物の水分を高める結果になり、今後のサンプル数が増えるに依り、穀物水分は高まるものと推測される。

2004年産カンサス州冬小麦の作付け品種：

カンサス州に於ける2004年産冬小麦の作付け第1位の品種は、Jaggerであった。当該品種は1996年産より作付けが開始され、1998年に作付けトップの座に付き以後作付け面積を増やして来た。2004年産小麦全作付面積に占めるJaggerの作付け面積率は、2003年より4.3ポイント減少し40.9%であった。9つの農業地区の内7地区で最も人気の高い品種となっている。カンサス大学にて開発された品種2137が第2位(8.9%)であった。Jagaleneは2004年産より作付けられた新品种である。州農業統計部の品種サーベで品種名が判明しているものだけで31品種有り、実際に作付けされている品種はそれ以上の数である。2種以上の品種を混ぜて作付けた圃場が15.2%を占めた。

Hard White 品種のTregoは昨年より作付けが増加し、第4位(3.5%)となった。Hard White Wheatは西部3地区にて作付けられ、全冬小麦の4.9%を占めた。HWWの作付けは、Kansas Wheat Commissionの資金援助にて行われている。

2004 Crop : Percent of Seeded Acreage

Variety	NW	WC	SW	NC	C	SC	NE	EC	SE	State
Jagger	33.0	14.9	32.5	28.6	43.1	60.5	10.5	41.0	35.9	40.9
2137	9.1	8.5	8.2	8.0	12.0	6.5	19.5	26.5	21.9	8.6
TAM 110	0.5	16.5	13.7	-	0.1	0.3	-	-	-	-
Trego	8.1	11.1	6.6	1.0	0.9	0.3	-	-	-	3.5
Jagalene	3.4	2.2	2.4	3.4	1.9	3.5	3.3	3.3	5.6	3.0
2174	-	0.1	0.1	0.3	2.9	6.2	1.4	1.5	13.7	2.8

詳細は次のサイトを参照：<http://www.nass.usda.gov/ks/whtvar/whtvar04.pdf>

当該作柄レポートに関するご質問等は下記までにお問い合わせ致します。

小川正晃 : Email ogawa.max@omicnet.com